

大阪府介護生産性向上支援センター
伴走支援プログラムDAY 5（成果報告）

エバーライフ御殿山による 「介護/看護職員 中心の職場づくり」の取り組み報告

2025年 3月11日

【事業所名】 株式会社ライフエール 介護付有料老人ホーム エバーライフ御殿山

01 事業所概要

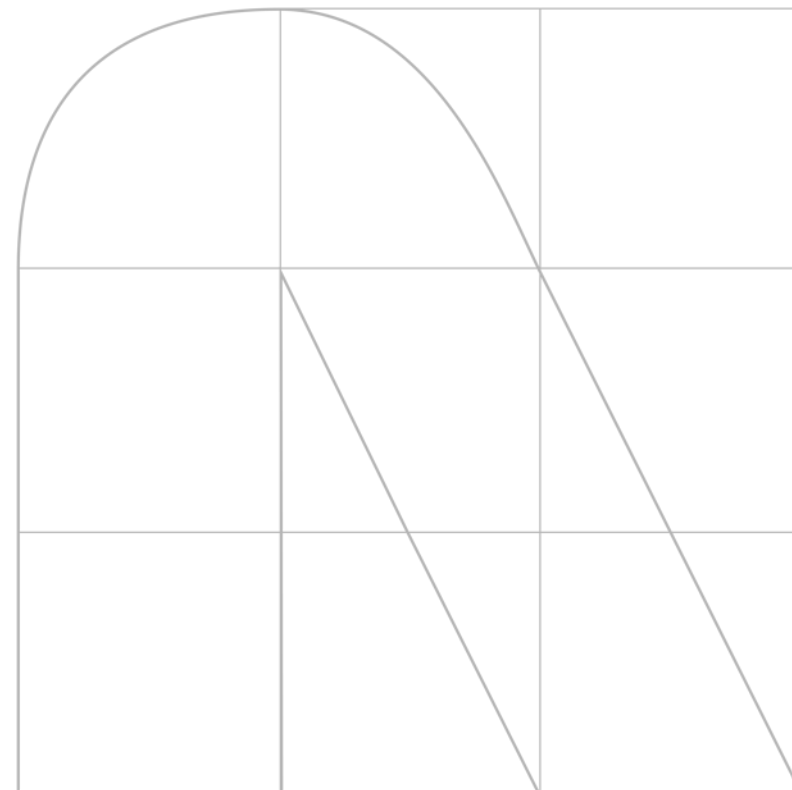
02 取組概要・流れ

03 取組結果・成果

04 取組のまとめ

01

事業所概要



01 事業所概要

事業所名 株式会社ライフエール エバーライフ御殿山

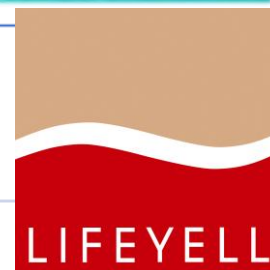
開設年月 2008年5月1日（開設17年目）

サービス種別 特定施設入居者生活介護

所在地 大阪府枚方市渚西町1丁目32-1

建物概要 3階建て 60室（1階=12室 2階=24室 3階=24室）

特徴 各階に食堂（計5か所あり）



01 事業所概要



01 事業所概要

- 職員構成

◆介護職員 27名
平均年齢 42.6歳（25歳～68歳）

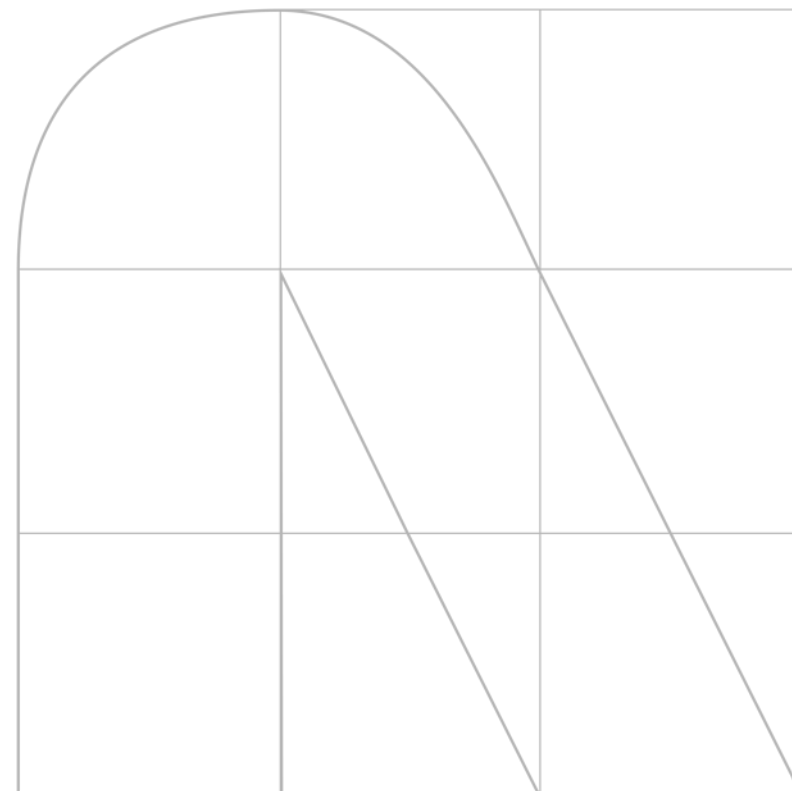
◆看護職員 5名
平均年齢 45.0歳（38歳～49歳）

25歳-29歳	4名
30歳-34歳	5名
35歳-39歳	3名
40歳-44歳	3名
45歳-49歳	9名
50歳-54歳	2名
55歳-59歳	2名
60歳-	4名



02

取組概要・流れ

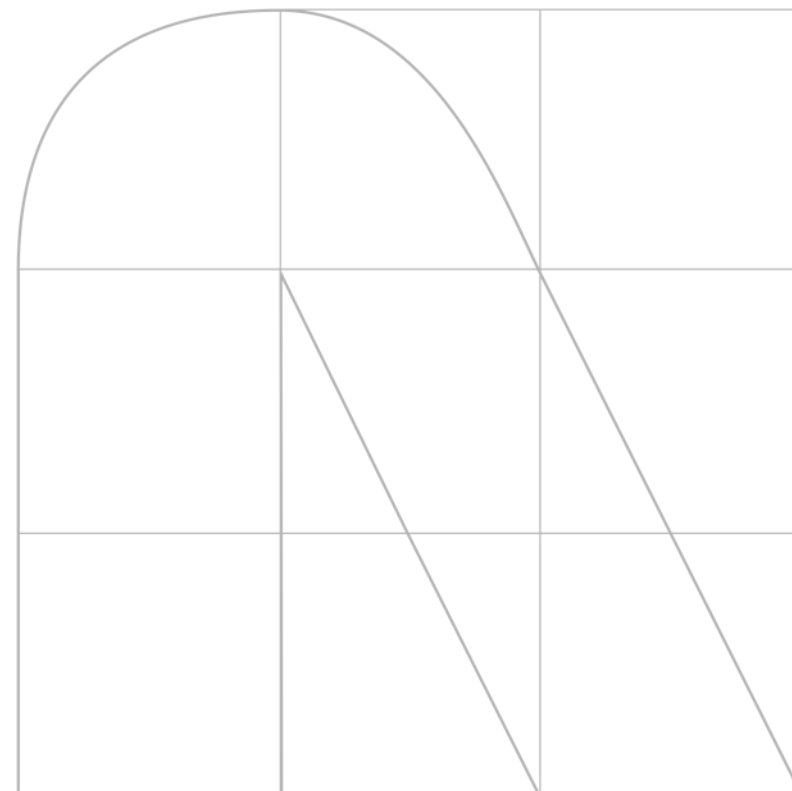


02 取組概要・流れ



03

取組結果・成果



03 取組結果・成果

【手順1】改善活動の準備をしよう

・情報収集

◆インテックス大阪で開かれたCareTEX大阪での情報収集



◆数多くの企業の方との打ち合わせを実施



03 取組結果・成果

【手順1】改善活動の準備をしよう

・組織を巻き込む取り組み

◆法人 理事長 事務長へのプレゼンテーションを実施

私が以前に勤めていた介護施設において
「眠りSCAN」を使用していたため
その効果および、導入後に収益にも寄与する
事をプレゼンテーションさせて頂く。



令和6年7月22日

理事長

理事長

事務長

エバーライフ御殿山

大西泰彦

エバーライフ御殿山 令和6年度介護ロボット・ICT導入支援事業（補助金活用）による介護ロボット等の導入に際し、今後見込まれる「利点」について、以下の通り報告いたします。

〔加算に関して〕 □1単位 10.45円で換算

①生産性向上推進体制加算を取ることが可能

□1カ月 100単位 □ × □60名 □ × □12カ月 □ = **752,400 円の増収/年間**

②科学的介護推進体制加算（LIFE）を取ることが可能 * 厚労省にデータの提出が必要

□1カ月 40単位 □ × □60名 □ × □12カ月 □ = **300,960 円の増収/年間**

〔人員に関して〕

03 取組結果・成果

【手順1】改善活動の準備をしよう

・プロジェクト実行体制

	プロジェクトメンバー名	役職	所属	プロジェクト上の役割
1	本部役員	室長	奈良東病院グループ プロジェクト推進室	統括責任者
2		スーパーバイザー	奈良東病院グループ ICT・教育推進室	技術担当リーダー兼アドバイザー
3		館長	エバーライフ御殿山	プロジェクトリーダー
4	40代 男性	生活相談員	エバーライフ御殿山	調査・事務・運用ルール担当
5	40代 女性	看護師	エバーライフ御殿山	研修担当・リスク担当
6	50代 女性	介護主任	エバーライフ御殿山	研修担当・技術担当
7	30代 女性	介護リーダー	エバーライフ御殿山	研修担当・技術担当
8	50代 男性	介護リーダー	エバーライフ御殿山	研修担当・技術担当

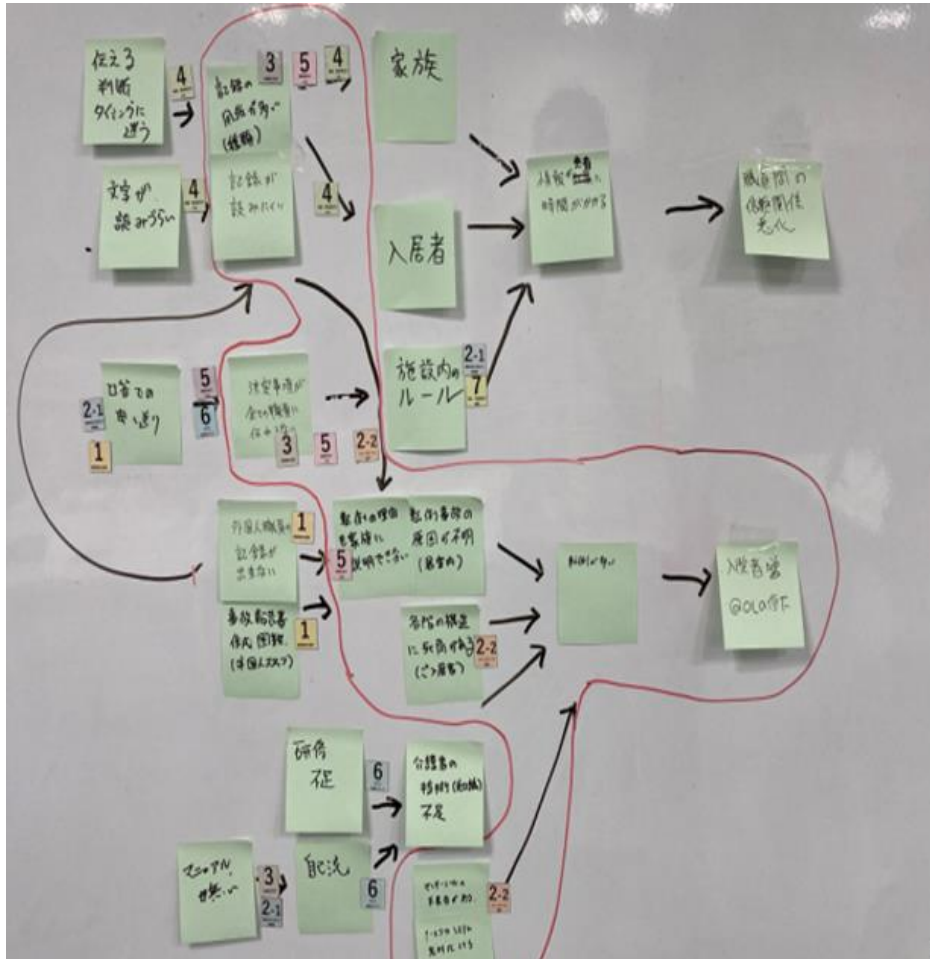
本部メンバーを役員や
経理メンバーとの
橋たわし役として活用

実際の推進メンバーは
日ごろからの施設の
中心メンバーで構成

03 取組結果・成果

【手順2】現場の課題を見える化しよう

・ 因果関係づくり



- ◆ 職員間の連携不足
- ◆ 介護、看護記録を確認する際の「ムダ」
- ◆ 申し送り時間の「ムダ」
- ◆ 居室内での転倒事故 多発
- ◆ 夜勤帯業務（巡視）の必要性
- ◆ 夜間オンコールへの不安
- ◆ 駐輪場が狭い
- ◆ 建物の構造上「死角」が存在する
- ◆ PHSの台数不足
- ◆ 出退勤の打刻漏れが多い

- プロジェクトの目的 ～見守り機器 導入による介護業務の効率化～

◆現状

居室内での、入居者様の様子を把握するためには「訪室 巡視」する必要がある
夜勤帯 2時間毎の巡視を行っている。必要か否か、疑問に感じ又、夜勤者の負担
にもなっている。

◆介護ロボットの導入

眠りSCAN+オプションセンサー

◆設定したKPI

夜勤介護士の勤務中の「歩行数」

- プロジェクトの目的 ～介護、看護記録を確認する際の「ムダ」の解消～（看護職員目線から）
 - ◆現状
 - 介護記録を「紙」に頼っており、それぞれの各階に保管をしている
 - そのため、看護職員が「介護記録」を確認するためには、各階へ移動して記録用紙を確認する必要がある
 - ◆介護ソフトの導入
 - ケアカルテ（ケアコネクトジャパン社）
 - ◆設定したKPI
 - 看護師の勤務中の「歩行数」

- プロジェクトの目的 ～申し送り時間「の「ムダ」の解消～（介護職目線から）

◆現状

全ての介護記録を「紙」に頼っていることから、夜勤職員から日勤職員への申し送りを読み上げて共有する必要があり、申し送りに時間がかかっている

◆介護ソフトの導入

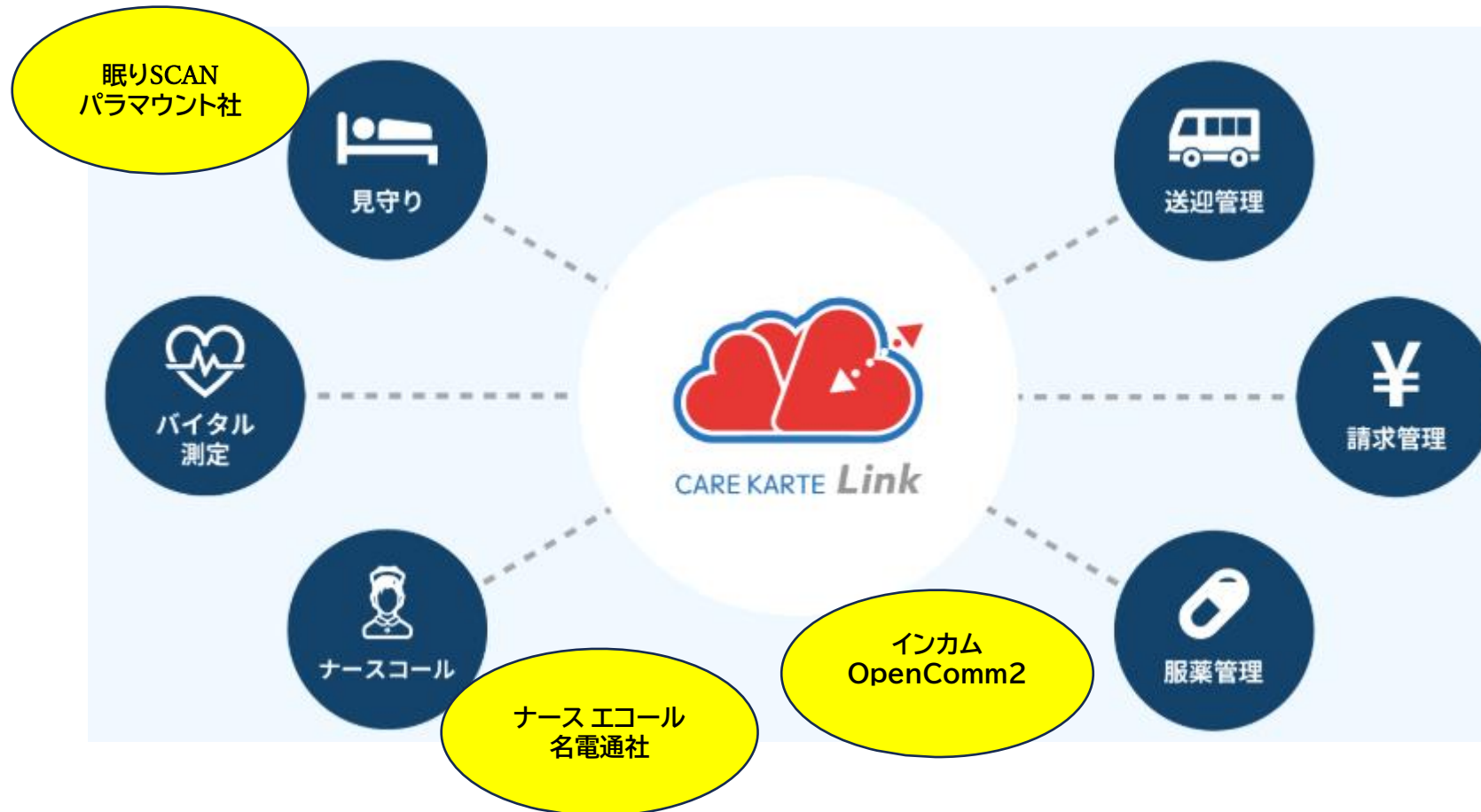
ケアカルテ（ケアコネクトジャパン社）

◆設定したKPI

申し送りに要する時間

ケース記録に要する時間

- 導入機器 介護記録 ケアカルテを中心に進めたため、機器選定の選択肢は無くなった



- 職員研修 介護ロボット（ICT機器）導入済み 活用している施設への見学を実施



CARE KARTe
ケアカルテ

手書き時代の良さをケアカルテで表現
“使いやすいシステム”に変えることが記録の質の向上につながる

2日間とも 14:00～16:00

施設見学会 開催 **10月11日（火）**
見学先：滋賀県米原市 **11月11日（月）**

満員御礼

滋賀県で障がい児者支援や、高齢者介護サービス、地域生活支援などの独自の事業を展開する『社会福祉法人[]』は、「子どもからお年寄りまでの“地域の中の居場所”でありたい」という理事長の叔母様の思いからスタートしました。
利用者にとって『[]』が、住み慣れた町で暮らし続けられる場所であるために、職員の働きやすさや離職防止、業務効率化にICTを活用しています。

施設見学の内容、流れ

集合場所 **米原駅** ※ケアコネクトジャパンスタッフが迎えに上がります
※施設見学終了後、ケアコネクトジャパンスタッフが米原駅までお送り致します

集合時間 **13:00** 参加費 **無料** ※交通費、宿泊費は自費

内容 ・社会福祉法人[]の各施設のご案内 ・[]理事長によるお話 ・質疑応答

申し込み方法

予約フォームよりお申込みください <https://x.gd/GJroU>



問い合わせ先
株式会社ケアコネクトジャパン 担当：[]
〒422-8067
静岡県静岡市駿河区南町18番1号 サウスポット静岡2F

・ マニュアルに関して ～眠りSCAN～

眠りSCANとは

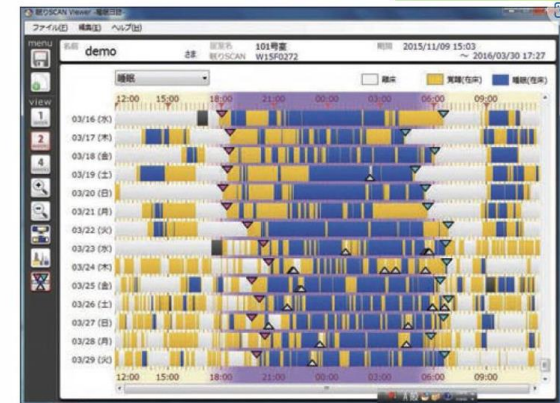
- ▶ ベッドマットレスの下に敷く、薄型のセンサー機械
- ▶ ベッド上の入居者の状態をリアルタイムで可視化 モニタリングが可能
- ▶ 心拍数 呼吸数
- ▶ 睡眠 覚醒 起き上がり 離床

アイコン説明



眠りSCANとは
睡眠に関して

- ▶ 青色＝睡眠
- ▶ 黄色＝覚醒
- ▶ 白＝離床 を表示
- ▶ 眠剤の調整等の参考になる
- ▶ 家族様への情報開示



睡眠日誌2週間表示の画像

◆眠りSCAN
私自身が、使用した経験を元に
マニュアルを作成

◆勉強会を実施



- マニュアルに関して ～ケアカルテ～



- ◆介護記録 ケアカルテは E-Learningでの学習を進める
- ◆施設内 各階のパソコンに E-Leareningをダウンロードし 活用する

- スケジューリング ～眠りSCAN～

- ◆2024年12月18日 使用開始

- まずは3階 24室で導入 10日後、12月29日から全てのフロアで使用開始

- ◆課題

- 眠りSCAN+オプションセンサーは体動で敏感に反応するため、センサー反応のたびに訪室する事となった。

- センサー反応あり、実際に確認すると「寝返り」だったケースも多々見られ、訪室回数が増えるケースも多くあった

- 眠りSCANを離床センサーとしても活用するための、オプションセンサーの反応が過敏であることが理由と考えられた

- ◆設定したKPI

- 夜勤介護士の勤務中の「歩行数」

- スケジューリング ～ケアカルテ～

- ◆2025年1月21日 使用開始（納品は12月17日）

- ◆課題

E-Learningを活用していたが、実際にケアカルテを触ってみないと、分からないことが多くあった

ケアコネクトジャパン様が準備してくださった「マニュアル」もあったが「習うより慣れろ」だった

- ◆活用方法

1/21～1/31までは紙の記録とケアカルテでの入力を併用

2/10～紙の記録を無くす計画だったが、実際は2/5～紙の記録を無くすことで運用

- ◆設定したKPI

申し送りに要する時間 ケース記録に要する時間 勤務中の歩行数（夜勤 看護）

- 眠りSCAN オプションセンサーの過剰反応への対応
 - ◆従来の「踏んで（握って）反応する形式のセンサーマット」と比較して、オプションセンサーは「体動」で反応するため、過剰な反応があった。
 - ◆上記を解決するために、プロジェクトメンバーを中心に「現場での話し合い」が進み活用度が加速した



- 紙の記録から、タブレット入力（スマートフォン含む）への移行
 - ◆タブレット（スマートフォン含む）の活用が、浸透しづらいと懸念
 - ◆使用し始めると「タブレットでの記録」を積極的に進め、予定よりも早く「紙の記録」を廃止することができた。「ケアカルテ」に加え音声入力の「ハナスト」も同時に活用



03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

- 見守り機器 眠りSCAN+オプションセンサー 設定したKPI 夜勤帯 介護士の歩行数

◆夜間帯の目視での巡視 今までは2時間毎に訪室して目視で確認
⇒24:00以後、05:00までは眠りSCAN上で確認し、原則は訪室しない

〔訪室しない〕



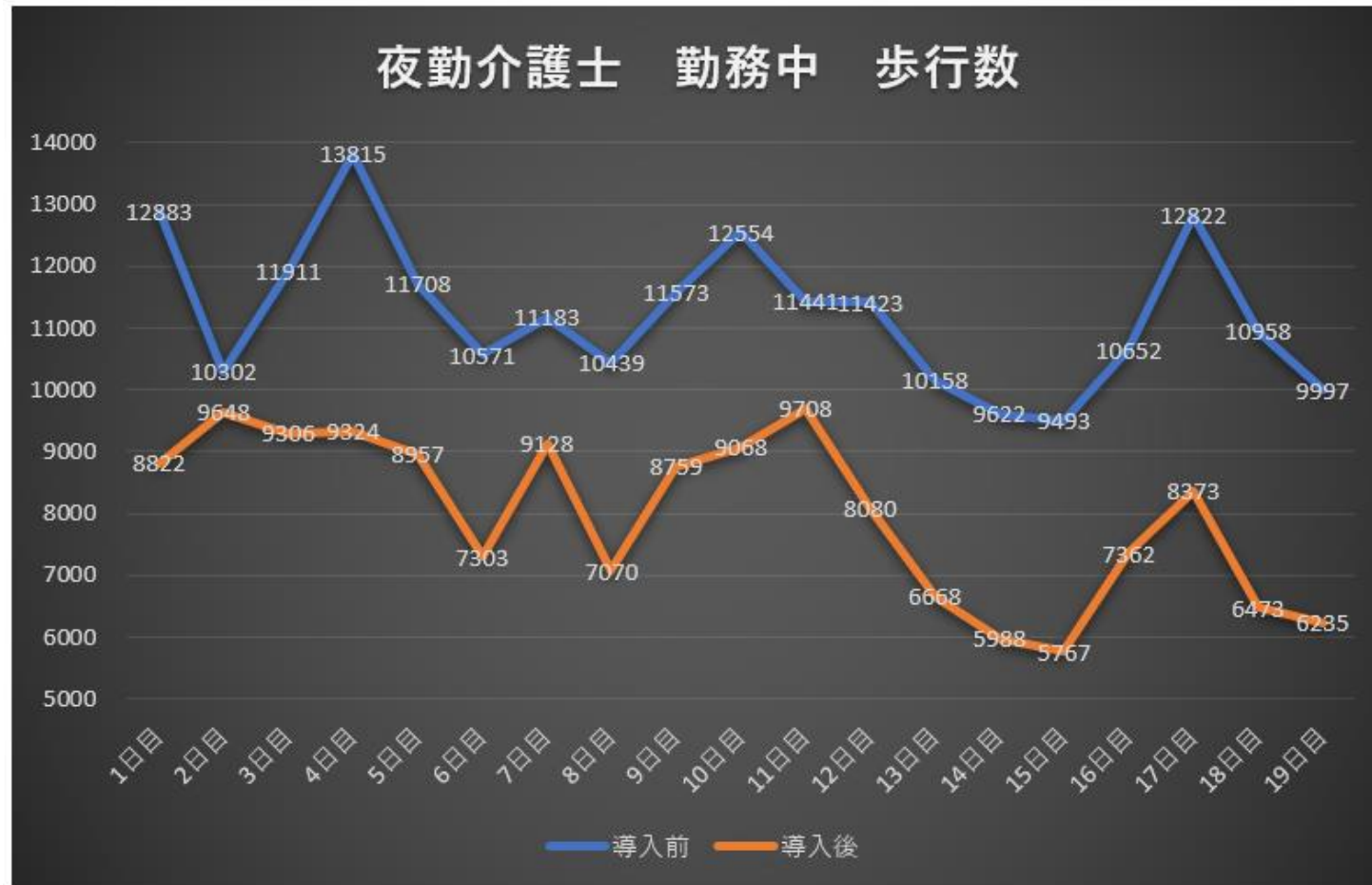
〔訪室する〕



03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

◆見守り機器 眠りSCAN+オプションセンサー 設定したKPI 夜勤帯 介護士の歩数



16 : 30-09 : 30	
夜勤帯 介護士の勤務中 歩行数	
導入前	導入後
11,237歩	8,002歩
71.2%	

03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

- 介護業務支援 ケアカルテ ハナスト iPad iPhoneSE
設定したKPI 申し送り時間の短縮



2024 年 経過

月/日	時間	要 点(フォーカス)
7/4		1他内服14日分 do
7/8		Bp=164/67, SpO2 98%, P=52 左足紫赤部様子悪 セルネースからトクゾン変更後も 流涎変わらず トクゾン継続 他内服も14日分処方 Bp=159/72 SpO2 98%, P=51 頭部広範囲に紫赤あり 採血は不明リキ 混合薬(ロコイドワゾン+ヘパリン剤)の管理 クリーム)を使用して様子観察 指示 腎部、肛門周囲の紫赤も持続 内服処方 14日分 頭 胸 CT 採血 施行 尿の量・色は 濃い。 明らかな病変は、 尿 もはいたの 様子観察の指示あり 採血の結果で 追加指示 出さず可能 Bp=119/68 SpO2 97%, P=50回/分 T=36.2℃ 8/6 発熱から 徐々に状態落ち着き(首の 頭部後部紫赤など) 食事自己摂取出来る 8/15

CAREKARTE V7.77.14 - 【エー・ライオン山】M448.0.0 : 大西泰孝 - 操作権限(申込印刷出力)

2025/03/03 1 日 00:00~00:00 終了

氏名	開始	終了	タイム	食事	水分	排泄	バイタル	入浴	記録内容	記録者
10:00	未定	10:00	10:00						【様子】良	大西泰孝
04:31	10:00	10:00	10:00						【様子】良	木下大介
07:00	10:00	10:00	10:00						【様子】良	木下大介
08:43	10:00	10:00	10:00						【様子】良	木下大介
09:30	10:00	10:00	10:00						【様子】良	大西和子
09:40	10:00	10:00	10:00						【様子】良	大西和子
10:54	10:00	10:00	10:00						【様子】良	大西和子
11:48	10:00	10:00	10:00						【様子】良	大西和子
13:58	10:00	10:00	10:00						【様子】良	大西和子
14:10	10:00	10:00	10:00						【様子】良	大西和子
17:04	10:00	10:00	10:00						【様子】良	大西和子
21:00	10:00	10:00	10:00						【様子】良	大西和子

◆従来は介護記録を各階で「紙に記録」して申し送り時に聞き取る

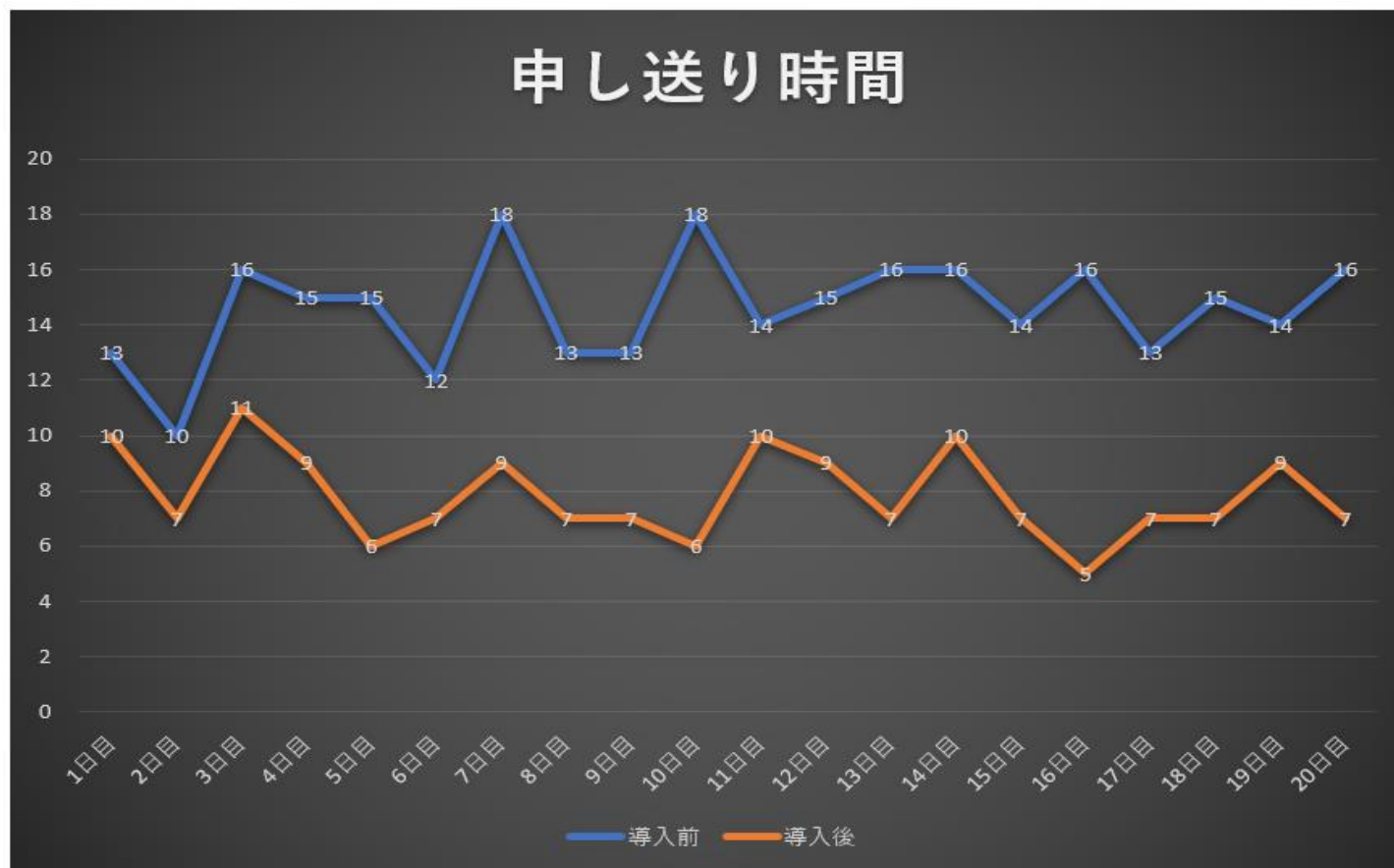
⇒介護記録ソフト+タブレット等の使用で、記録は手元で確認することができる

03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

◆介護業務支援

ケアカルテ ハナスト iPad iPhoneSE
設定したKPI 申し送り時間の短縮



申し送り時間	
導入前	導入後
15分	8分
53.8%	

03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

- 介護業務支援 ケアカルテ ハナスト iPad iPhoneSE
設定したKPI ケース記録の記入時間（手順の変更）



The image shows a comparison between traditional handwritten medical records and a modern digital care plan system. On the left, a handwritten record for a patient named '大西 幸子' (Onishi Yukiko) is shown, detailing vital signs (BP, SpO2, P) and care activities. On the right, the same information is entered into a digital interface titled 'CAREXARTE V7.77.14'. The interface includes a timeline of activities with checkboxes for completion and a list of staff members involved in the care. A large red arrow highlights the transition from the handwritten notes to the digital system.

◆従来は各階の日勤リーダーが全入居者様の様子を介護記録として手書き記入

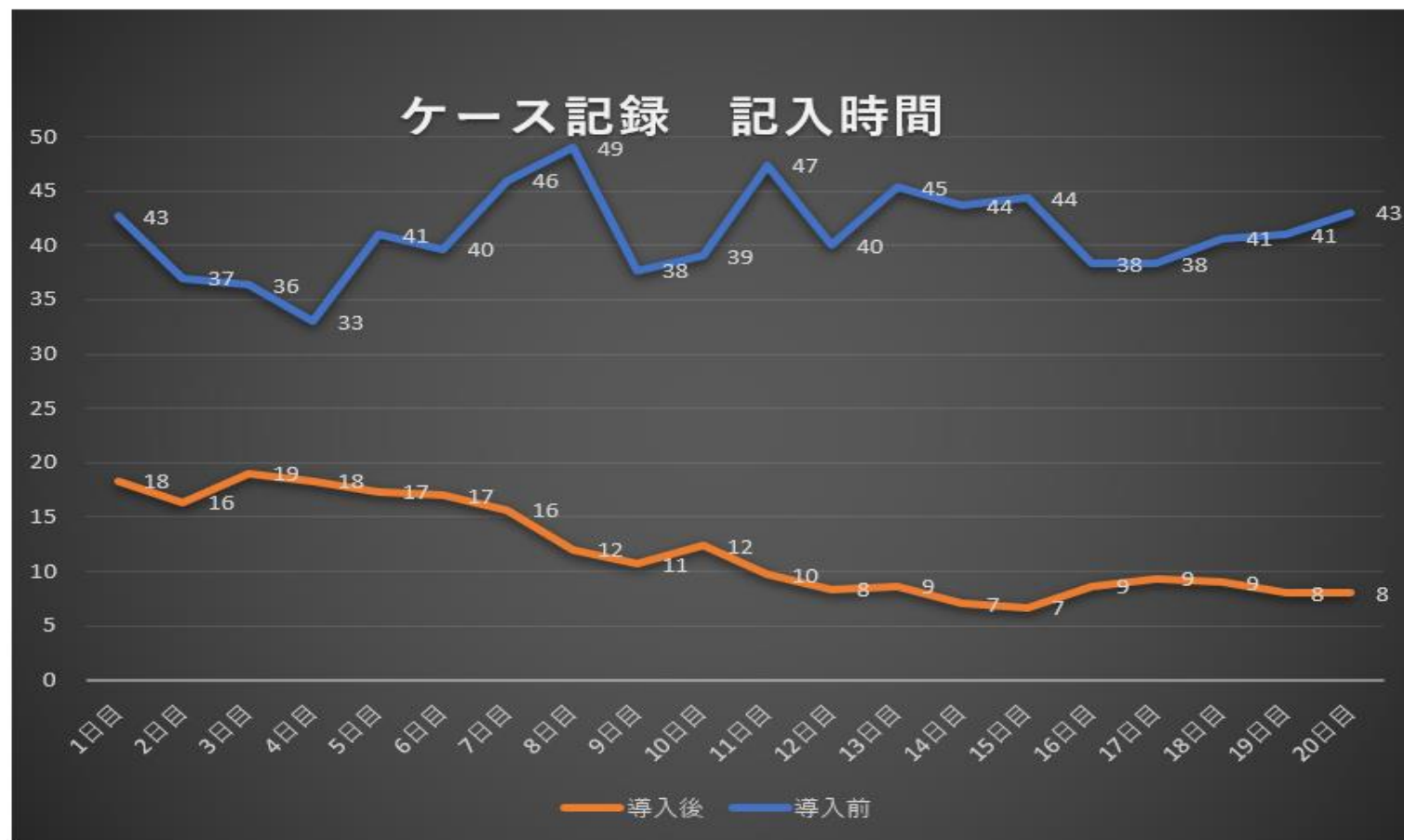
⇒タブレット等で介護記録を入力を実施するため「記録の入力漏れが無い？」の確認に業務手順を変更する

03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

◆介護業務支援

ケアカルテ ハナスト iPad iPhoneSE
設定したKPI ケース記録の記入時間（手順の変更）



ケース記録 記入時間	
導入前	導入後
41分	12分
29.2%	

03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

- 介護業務支援 ケアカルテ ハナスト iPad iPhoneSE
設定したKPI 看護師の勤務中 歩行数



◆従来は介護記録を各階で「紙に記録」しているため看護師が情報を得るためには、各階に移動しなくてはならなかった

⇒介護記録ソフト+タブレット等の使用で、記録は手元で確認することができる。移動が軽減される

03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

◆介護業務支援

ケアカルテ ハナスト iPad iPhoneSE

設定したKPI 看護師 勤務中 歩行数（手順の変更）



看護師勤務中の歩行数

導入前

導入後

6,117歩

5,395歩

88.2%

- 2/28(金) プロジェクトメンバーによるMTG実施

- ◆眠りSCANのデータが、十分に活用できていない

- ◆眠りSCAN+オプションセンサー導入後、転倒事故に減少がみられない

⇒まだ、データを活用する余裕が無い。

⇒睡眠記録のデータをどのように活用するか、メーカー様の意見を聞いてみる

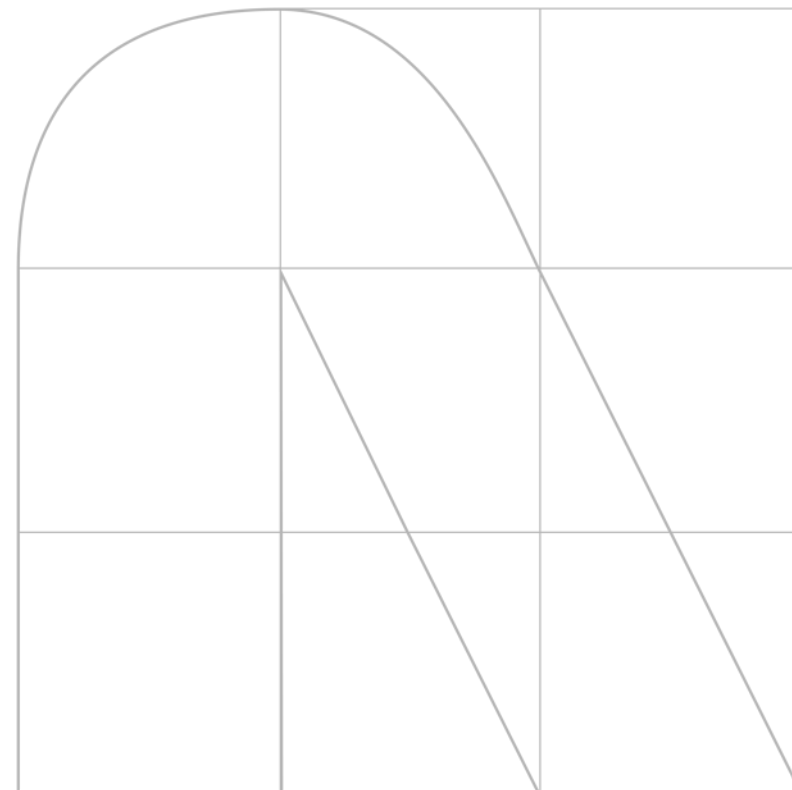
- ◆ケアカルテの機能を十分に活用できていない まだまだ活用できる機能が残っているはず

- ◆今ある業務をケアカルテに移行できることが、あると考える

⇒メーカー様に、説明に来ていただく

04

取組のまとめ



・個人の感想

- ◆ 昨年の、6月から取り組んできて、ほんとにしんどかった 
そして、勉強になった。
- ◆ プロジェクトが軌道に乗るまで、私に様々なことを質問にくる職員が多くあり
自分自身の業務に余裕を無くす日々が、長くあった。
- ◆ 軌道に乗ると、現場ではどんどん使いこなし始め、私の知らない操作まで現場先行で
使いこなし始めて、現場職員に対し頼もしく感じるようになった
- ◆ 操作方法や課題を、互いに話し合う光景もみられ、うれしくなった
- ◆ 介護専門学校の実習生にも今、機器をつかってもらっているが、目を輝かせて使用している

・理事長から

会社組織の、そして地域のモデル施設として、どんどん活用を進めて欲しい。
ご苦労様です。との声を頂く。

- 職員

- ◆職員間の連携が良くなった（30代 介護職員）
- ◆想像していたほど、操作に苦労しなかった（60代 介護職員）
- ◆手元で直ぐに、記録ができるので業務に余裕が出来てきたと思う（50代 介護職員）
- ◆自宅でのオンコール対応時に、ご入居者の様子を振り返ることができるので自信を持って指示を出すことができる（30代 看護職員）
- ◆どこに居ても、記録が確認できるので休みの日または、施設を不在にしているても安心できる（50代 管理者）

- ◆音声入力が反応せず、いらいらする
- ◆自分だけが、十分に活用できていない感じがして……
- ◆Wi-fi環境により、自分だけ連絡が入っていないことが多い

- ご入居者 家族様 施設見学者様
 - ◆手元でスマホを見ていたり、歩きながら「ぶつぶつ」話していたり、最初は戸惑ったけど説明をして頂いてからは、状況が理解できた (80代 女性)
 - ◆入居直後で、夜に眠ってくれているか心配だったけど、データを見せて頂き安心した (80代 男性ご入居者 家族様)
 - ◆高額な（高額に思える）機械を入れられて・・・値上げ、しませんよね？（家族様）
 - ◆便利な世の中になりましたねえ★ （家族様）

- ・今後

今、導入した介護ロボット ICT機器以外の導入も検討し、更に生産性向上に向かい合っていきたい。既に「LINE WORKS」導入で 往診医 ↔ 施設 ↔ 薬局 の連携が良くなっている。Wi-fi タブレット（スマートフォン）の活用で、更なる生産性向上が広がる。

- ・今回のKPIでは、時間短縮に焦点があたっており、個々の「負担軽減（体感）」も集約していきたい



NTT DATA

株式会社NTTデータ経営研究所

Lighting the way
to a brighter society